

ILSI Japan 活動報告<2019>

事務局

【ILSI Japan 総会】

1, 2 月	<p>平成 31 年通常総会が 2 月 21 日(木)午前 10 時より日本橋公会堂にて開催された。</p> <p>審議事項</p> <p>第 1 号議案 2018 年度事業活動報告及び決算報告案が承認された。 第 2 号議案 2019 年度事業活動計画及び収支予算案が承認された。 第 3 号議案 役員の報酬に関する定款変更が承認された。</p> <p>3 つの議案について共に質問はなかった。</p> <p>報告事項</p> <p>本部総会報告 2 月 6 日の第 1 回理事会での報告と同様。</p>
3, 4 月	
5, 6 月	
7, 8 月	
9, 10 月	
11, 12 月	

【事務局】

1, 2 月	事務局次長としてキックマンから出向された小幡明雄氏が 2 月末で退職。
3, 4 月	3 月よりキックマンの山越純氏が、事務局次長として着任した。
5, 6 月	本年 2 月開催の総会にて決議された定款の変更（第 19 条 役員の報酬）を所轄の東京都生活文化局に申請し、いくつか指摘を受け修正の後、審査の結果、本年 5 月 31 日付の認証書をいただいた。ILSI Japan のホームページ上の定款を 6 月に差替えした。
7, 8 月	特になし。
9, 10 月	10 月 24 日付にて「栄養学レビュー」担当として元森永乳業(株)の箸本氏が就任した。
11, 12 月	12 月 31 日付にて、花王(株)から出向の柳澤佳子氏が退職。

【理事会】

1, 2 月	<p>○第 1 回理事会が、2019 年 2 月 6 日（水）に開催された。</p> <p>確認事項（平成 31 年通常総会決議事項）</p> <p>1. 2018 年の事業活動報告及び決算報告書案 事務局が各研究会、研究部会ごとに事業活動報告をし、決算の概要を資料に基づき説明した。</p> <p>2. 2019 年事業活動計画及び収支予算案 事務局が各研究会、研究部会ごとに事業活動計画及び収支予算の概要を資料に基づき説明した。</p> <p>3. 定款変更 第 3 章 役員 第 19 条</p>
--------	--

従来の定款では「総数の3分の1以下の役員は報酬を受ける事が出来る」という項目があるが、2018年8月に本部理事会により決議された Mandatory Policy 中の「理事は理事会や委員会の業務を遂行した場合でもその報酬を ILSI から受けてはならない」に則り、役員は無報酬とする修正条項を提案した。

2号議案について2019年の活動計画案と収支予算案は、理事会承認のみにして通常総会では決議しないことが可能との意見が出て、これについて問題がないか所轄庁に確認することとした。

また3号議案についてNPO法人の理事に報酬を支払わねばならないとの規定が法律があるので、所轄庁にその旨確認して欲しいとの意見が出た。

以上2つの意見について所轄庁に確認したところ、前者は問題ないが透明性の点で通常総会の議案にする方が望ましい、後者はNPO法人の理事は報酬がない場合が多く、無報酬は問題ないとの回答を得た。結果、原案のまま総会に提出することを理事に確認した。

報告

本部総会報告

本部機関には Assembly of Members (本部総会) と Board Of Trustees (本部理事会) があり、前者の構成メンバーがインダストリーに偏っているので、インダストリー1名、アカデミア1名の計2名のメンバーを全17支部より選出し、計34名で構成すること、また後者は効率よく、フレキシブルな運営が出来るように、構成メンバーを本部費の貢献および地域のバランスを考慮して、北米2名、欧州2名、Research Foundation 2名、東南アジア1名、ラテンアメリカ1名、中国・インド・日本・韓国・台湾のグループから1名、その他1名の計10名の理事に変更することを本部理事会にて決定した。

また、“A Brave New World In Nutrition & Food Safety” と題して ILSI 2019 Science Symposium が開催され、そのうち「セッション1: New Technologies Advancing Accuracy in Food Intake and Physical Activity Assessment」において、東京大学の笹井先生に“Accuracy of wearable devices for estimating total energy expenditure: comparison with metabolic chamber and doubly labeled water method” というテーマで発表していただいた。

本部総会の開催期間中に、BMJ (英国の権威ある医学雑誌) 誌に、コカコーラ社が中国政府の肥満対策の政策決定にイルシー中国を通して影響を与えている、という論文が掲載され、多くの欧米のメディアがそれを参照して記事にした。本部はイルシー共通のステートメントを即座に発信するとともに、論文に対するコメントをホームページに掲載するなど対応を図った。

3, 4月

○第2回理事会が、平成31年4月26日(金)に開催された。

<報告/討議事項>

1. 会員入退会

入会1社、退会2社、退会検討中1社、買収・合併による減少2社となった。

2. 研究会・部会報告

ア) AATプロジェクト

現在16社が参加。情報収集・発信活動として「日本動物実験代替法学会」との連携を図るため会員登録した。また来年10月22, 23日に ILSI Europe との共催として「AATアジア・ワークショップ」の開催を決定した。

イ) 微生物研究部会

	<p>3月6日大田区にて「NGSの食品安全への展望」と題し公開シンポジウムを開催した。</p> <p>ウ) バイオテクノロジー研究会</p> <p>3月18日に千代田区にて研究会メンバー限定の「組換え微生物を用いた高度に精製された添加物・食品の安全性評価の科学的な考え方についてのワークショップ」を開催した。</p> <p>エ) ACN (Asia Congress of Nutrition)</p> <p>本年8月4～7日にバリ島にて開催されるACNにて、「栄養と認知症」のセッションに、愛知県の国立長寿医療研究センターの佐治副センター長に「腸内細菌と認知症」と題する講演を依頼した。</p> <p>オ) 4月2日に栄養とエイジング国際会議 組織委員会開催</p> <p>会場が正式に「国連大学ウタント国際会議場」に決定した。また会議内容をNutrition Reviews 誌のSupplement (増補版)として出版を検討中。参加者の応募専用のWEBを開設予定。広報活動について専任チームをつくり参加者増を目指し今後強化していく。</p> <p>カ) CHPのNJPPP (栄養改善事業プラットフォーム)の活動報告</p> <p>昨年から今年にかけて、農水省のNJPPP事業を2件受託し、現地での活動内容を報告した。</p> <p>3. 新寄付講座の今後</p> <p>どのようなテーマで進めるかを議論した。今後の進め方、考え方を次回理事会にて行う予定。</p> <p>4. IUFoST Japanの委任理事の選任</p> <p>議論の結果、木村元会長に替わり、新たに坂田理事を選任し、松山理事の重任を確認した。</p> <p>5. 本部理事会報告</p> <p>ガバナンス変更に伴う規程の改定として、本部の理事会の役割と責任、支部総会の役割と責任が決定された。また来年の本部総会の内容、項目等の説明をした。</p>
5, 6月	開催なし
7, 8月	<p>第3回理事会を2019年7月26日(金)に開催した。</p> <p>1. 決議事項</p> <p>事務局長より来年組織されるILSI Assemblyのメンバーについて、その役割、参加する会議、任期を説明し、ILSI Japanの理事会のメンバーの内インダストリーから1名、アカデミアから1名選任すると説明した。議論の末、インダストリーは、阿部(文)理事、アカデミアは宮澤会長に満場一致で決定。</p> <p>2. 報告事項</p> <p>ア) 新寄付講座</p> <p>「新寄付講座」の内容の方向性について理事長より提案があり議論した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ILSIとして栄養と健康の分野は重要であり、国立健康・栄養研究所及び東北大の長寿センターと協働した取り組みで検討することが提案され、引き続きその方向で進めることで議論された。 <p>イ) 研究部会活動</p> <p>各部会の7～8月の活動内容について、事務局長より説明した。</p> <p>ウ) 2019年収支見込と収支改善の取組み</p> <p>今期の収支見込の説明を俵積田次長が説明し、それに続き事務局長が収支改善</p>

	<p>の提案を 2, 3 挙げ、議論をした。</p> <p>エ) 役員改選 来年 2 月に現役員の任期が満期になり、研究部会活発化を目指し、役員の増員を提案。候補の推薦など今後進め方を検討する旨説明した。</p>
9, 10 月	<p>第 4 回理事会を 2019 年 10 月 18 日（金）に開催した。</p> <p>1. 決議事項 木村毅副理事長が来年度、本部理事候補へ推薦されることに伴い、その選任基準を満たすため ILSI Japan 副理事長職の退任の説明があり、満場一致で可決された。 次に木村理事の副理事長退任に伴い、同じ業界の阿部（文）理事を新副理事長に選任した。また理事長の職務代行第一順位についても同じく業界から谷口副理事長を選任した。</p> <p>2. 報告・討議事項 1) 研究会・研究部会活動の以下内容について、事務局長より説明、報告した。 ア) BeSeTo 会議 イ) 栄養とエイジング国際会議 ウ) ISO/TC34/SC16 総会ポストワークショップ エ) 微生物研究部会（国際整合性のある食品微生物リスク管理研究分科会） オ) AAT プロジェクト カ) CHP 活動</p> <p>2) 2019 年収支見込 俵積田次長より、連結ベースの収支は、7 月時の見込みより収支が改善していること、またその詳細を説明した。</p> <p>3) 新寄付講座の進捗 概要の説明が事務局よりあり、次回理事会にて最終案の提案を予定する。</p> <p>4) 新役員選任プロセス 新たなテーマと研究会活性化を考慮し「栄養と健康」、「環境・サステナビリティ」分野を進めたい。そのためのプロセスを検討して提案する。</p>
11, 12 月	<p>第 6 回理事会が令和元年 12 月 19 日（木）に開催された。</p> <p>I. 決議事項 議案： ① 2019 年度収支見込最終案 連結ベースでは、収入 80.2 百万円、支出 80.0 百万円、差引 0.3 百万円のほぼ収支均衡となる見込みで、これは予算に比し 4.0 百万円益となる見込（ただし、「栄養とエイジング」国際会議の Nutrition Reviews への投稿費用は 2020 年へ繰り越し）。 ILSI Japan はほぼ予算収支差額並みになる見込み。CHP は NJPPP の活動を活発にしたので収入が増加、ただし関連費用も増え予算収支に比し、0.5 百万円の損となる見込み。</p> <p>② 2020 年度収支予算最終案 連結ベースでは収入 71.0 百万円で大幅に減り、支出 77.6 百万円となり、差引 6.6 百万円の損失となり、前年より損失額は 6.9 百万円増加する。 2020 年度は第 8 回「栄養とエイジング」国際会議の Nutrition Reviews への投稿費用などが発生するが、それを除くと 2018 年とほぼ同じ収支になる。 ①、②双方とも異議なく承認された。</p>

II. 承認、報告、討議事項

1. 承認事項

1) 理事会での事前審議、承認プロセスについて

現在、理事会で事前審議及び承認を必要とする事項が規定されていないため重要事項が理事会の承認なく実施されるガバナンス上の問題があり、事前に承認する事項案を提示し討議した。次回の理事会までに意見をいただき承認の予定。

2) 寄付講座

3) 理事・監事再任案

アカデミア理事7名、産業理事が1名減り6名、監事2名を再任予定。

2. 報告、討議事項

1) ILSI Assembly の報告

ILSI Assembly が本部理事9名を承認。

2) 本部総会プログラム

2020年1月17日から始まるプログラム内容を日程別に説明。

3) 2020年の理事会、総会の日程